

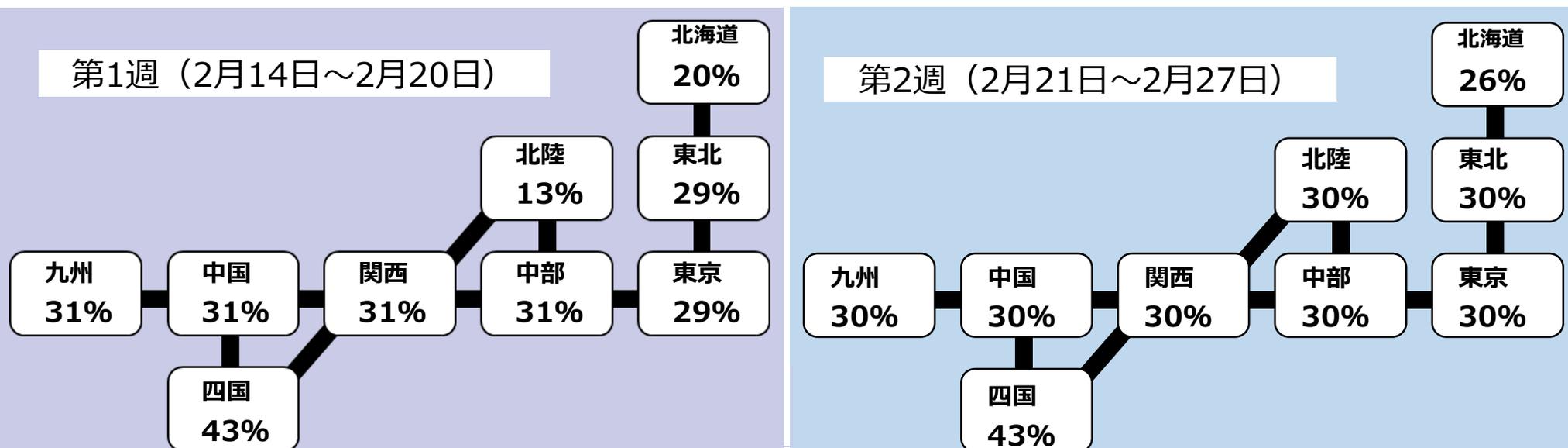
第1週（2月14日～2月20日）・ 第2週（2月21日～2月27日）

- kWh余力率は、各ブロックとも**第1週は13%以上、第2週は26%以上**を確保できる見通しであり、直ちに需給対策を実施する状況にはない。

※余力率が10%以上の時は小数点以下を切り捨てて表記しており、同一余力率でもブロック分けが異なる場合がある。

- なお、需要の増加や燃料調達の遅延、ベースロード電源の計画外停止等によりkWh余力が減少する可能性があるため、今後もモニタリングを継続する。

※例えば、大規模なベースロード電源（100万kW）が停止すると、kWh余力率を約1%押し下げることになる。



・ kWh余力率は連系線の空容量の範囲で、極力同一の余力率となる電力融通の実施を想定したものであり、空容量が十分にあれば、同一のkWh余力率となる。